

① 申請者	南砺市	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B <input checked="" type="checkbox"/> C D E
-------	-----	-------	--

③ タイトル

宮大工の<sup>のみ</sup>鑿一丁から生まれた木彫刻美術館・井波

④ ストーリーの概要（200字程度）

瑞泉寺<sup>ずいせんじ</sup>の再建に端を発し、宮大工の<sup>のみ</sup>鑿一丁から生まれた華麗にして豪壮な井波彫刻と、その木彫刻職人たちが造りあげたまち井波。彫刻工房と町家が軒を連ねる石畳の通りには、木槌の音が響き、木々の薫りが漂う。通りには至るところに七福神や十二支などの木彫刻が飾られ、まちはさながらに木彫刻の美術館である。春には井波彫刻で飾られた曳山や屋台、獅子舞がまちを練り歩き、地域の安泰や五穀豊穡を祈る。地域の暮らしに根づく井波彫刻は、その高い技術力や芸術性を広く全国から認められ、今や日本の木彫刻文化の護り手となっている。



木彫刻の工房と町家が並ぶ石畳の八日町通り



井波彫刻発祥の場所・瑞泉寺

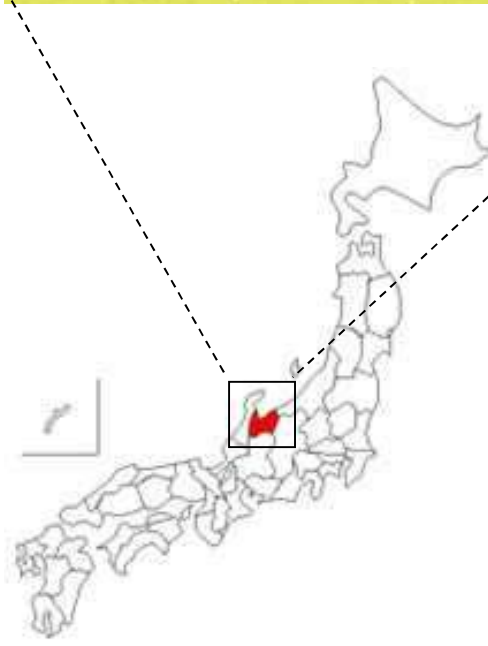


受け継がれる高度な木彫刻の技

⑤ 担当者連絡先

担当者氏名			
電 話		FAX	
E-mail			
住 所			

### 南砺市の位置図等



### アクセスMAP



#### 高速道路の所要時間

- ・東京 (練馬 I.C) から 約 5 時間 30 分 (上越・富山経由) . . . . . 関越・上信越・北陸・東海北陸自動車道 → 南砺
- ・名古屋 (名古屋 I.C) から 約 2 時間 30 分 . . . . . 名神・東海北陸自動車道 → 南砺
- ・大阪 (吹田 I.C) から 約 3 時間 30 分 (福井・金沢経由) . . . . . 名神・北陸・東海北陸自動車道 → 南砺
- ・金沢 (金沢東 I.C) から 約 30 分 . . . . . 北陸・東海北陸自動車道 → 南砺

#### 鉄道 (JR) の所要時間

- ・東京から . . . . . 約 4 時間 30 分 北陸新幹線 (はくたか) → 新高岡駅 → 城端駅
- ・大阪から . . . . . 約 5 時間 北陸本線 (特急) → 金沢駅 → 高岡駅 → 城端駅
- ・名古屋から . . . . . 約 5 時間 東海道新幹線 → 北陸本線 (特急) → 金沢駅 → 高岡駅 → 城端駅
- ・金沢から . . . . . 約 1 時間 30 分 北陸新幹線 (はくたか、つるぎ) → 新高岡駅 → 城端駅
- ・富山から . . . . . 約 1 時間 30 分 北陸新幹線 (はくたか、つるぎ) or 北陸本線 → 新高岡駅 → 城端駅

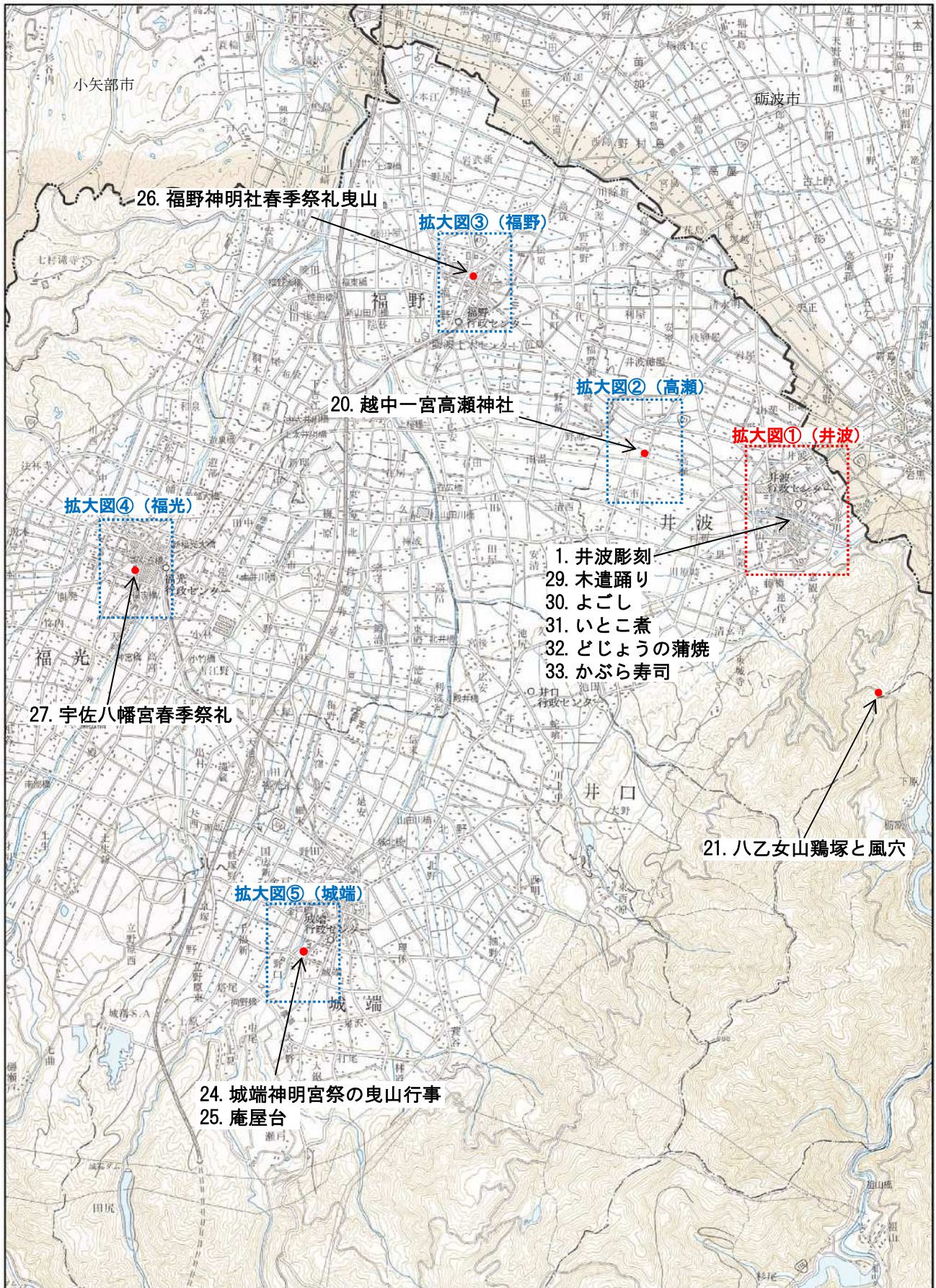
#### 飛行機・レンタカーの所要時間

- ・羽田から 約 1 時間 → 富山きときと空港から 約 40 分 . . . . . 国道 41 号・北陸・東海北陸自動車道 → 南砺
- ・新千歳から 約 1 時間 30 分 → 富山きときと空港から 約 40 分 . . . . . 国道 41 号・北陸・東海北陸自動車道 → 南砺
- ・羽田から 約 1 時間 → 小松空港から 約 1 時間 . . . . . 北陸・東海北陸自動車道 → 南砺

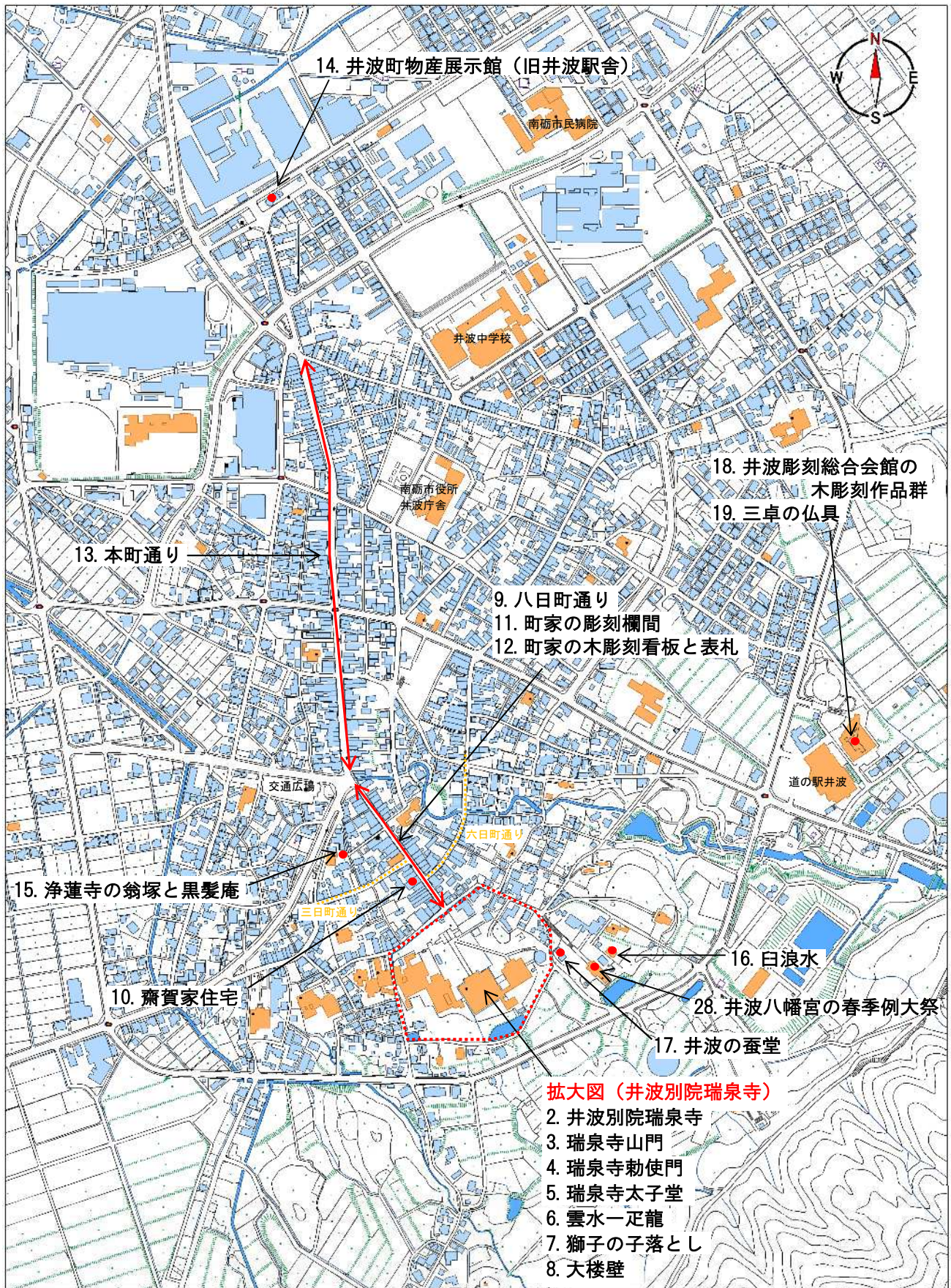


構成文化財の位置図 (地図等)

拡大図 I (平野部)



拡大図① (井波)





拡大図② (高瀬)



拡大図③ (福野)



拡大図④ (福光)



拡大図⑤ (城端)





## ストーリー

## 【木槌の音が響き、木々の薫りが漂うまち】

瑞泉寺の門前の緩やかな上り坂、石畳の八日町通りには工房や町家が軒をならべ、どの家にも鳳凰や龍、七福神、動植物など様々なデザインの木彫看板や表札が掲げられている。通りのそこかしこから、「とんとん」「かんかん」「シュッシュ」と時に力強く、時にリズムカルに木を叩き削る木槌の音が響き、辺りには楠や欅、檜など木々の薫りが漂う。ここは木彫刻のまち・井波である。

ひと際目を引く精緻な造りの看板が掲げられている木彫刻職人の工房は、ショーウインドウのように通りから中を窺うことができ、板張りの作業部屋の手前に弟子達、その奥で親方が自らの技を誇るように鑿を振る。一枚の大きな分厚い板に墨で下絵を描き、200～300種類の彫刻刀を使い分け、荒落とし、荒彫り、小彫り、仕上げ彫りにと取組む。大きな欄間や繊細な仏具などは完成までに数か月から数年を要し、職人はその間一心不乱に木と格闘する。欄間や衝立、獅子頭、天神様など彫り上げられた多くの作品は工房内に大切な商品として陳列され、またそれらは若い職人達の貴重な手本ともなっている。

通りにある多くの町家は木造・中二階建てで、通りに面して格子が覆うなど江戸時代からの佇まいを留めており、全体に落ち着いた外観である。造り酒屋の町家の正面には大きな欅の一枚板の彫刻看板が掲げられ、屋号や商号、酒樽の図柄が彫り込まれている。蕎麦屋を営む町家に入ると、江戸時代の職人の手による彫刻欄間をはじめ、衝立や獅子頭など優れた彫刻作品に目が留まる。その他、通りには来訪者を歓迎する大きな木彫刻のモニュメント「花鳥の塔」などと共に、バス停や電話ボックス、ベンチ、街路灯といった井波の人々の暮らしに関わる施設にも木彫刻が施され、伝統的なまちなみと融和している。

一方、通りを北に下る本町通りには、鑿屋、彫刻刀屋、建具屋、木地屋、塗師屋などが建ち並び、彫刻職人を支える職人街として、木彫刻のまちの基盤となっている。本町通りの先には、代々瑞泉寺の大工棟梁をつとめた松井角平の手による旧井波駅舎があり、昭和47年の鉄道廃止以前は瑞泉寺への玄関口として多くの参拝客を迎い入れた。この旧井波駅舎から瑞泉寺へと向かう本町通りと八日町通り、そして八日町通りから東西に伸びる六日町通り、三日町通りなどにも、木彫刻の工房が数多く点在し、木彫刻のまち・井波は形づくられている。

## 【瑞泉寺の再建と井波彫刻の誕生】

瑞泉寺は現存する北陸最大の木造建築物で、その伽藍は木造寺院としては全国屈指の規模を誇っているが、瑞泉寺と門前のまちは幾度となく井波風と呼ばれる強風が原因で大火となり焼失している。そのため防火対策として、寺の正面には大塼壁と呼ばれる高さ約6.2mもある石垣が築かれ、さらには参道である八日町通りの正面からあえて山門や本堂を少しずらして配置するなど、風の通りを抑える工夫もされており、これらは宝暦12年(1762)の大火後の瑞泉寺再建にあわせてなされたものである。そして、井波彫刻もこの時の瑞泉寺再建をきっかけに産声をあげる。

瑞泉寺再建の際、寺を飾る木彫刻を担うため、京都から派遣された東本願寺の御用彫刻師・前川三四郎に、井波の宮大工四人が弟子となり木彫刻に従事した。井波の宮大工たちは、京の芸術性の高い匠の技を吸収し、脈々と技を磨き受け継ぎながら、華麗で繊細、豪壮で大胆な井波彫刻を生み育てていったのである。

瑞泉寺山門の「雲水一疋龍」は井波彫刻の祖となった前川の作品で、明治12年(1879)の大火の折、木彫りの龍が山門から抜け出し、近くの井戸の水を吸い上げ山門や勅使門に掛け、類焼を免れたと伝えられる。勅使門に彫られている「獅子の子落とし」は、親獅子が千尋の谷に子を落とし、断崖から這い上が



瑞泉寺へと伸びる八日町通り



木彫刻職人の工房



造り酒屋の町家と木彫看板



瑞泉寺の防火・防風壁「大塼壁」



山門に残る「雲水一疋龍」

ろうとする子を岩陰から厳しく、そして慈愛の眼で見守る姿を見事に彫り上げており、日本の木彫刻史上に残る傑作中の傑作と言われる。本堂の東側に建つ大きな太子堂は、大正時代に造られたお堂で各所に職人の技の真髓が見られる。正面階段上の屋根を支える柱の上部内側に彫られた手挟み彫刻は、空間を生み出す奥行きのある彫りで、龍や幾重にも重なって見える波が立体的に表現されている。また、堂内の幾つもの欄間は、表裏に別々の絵柄を透かし彫りで仕上げられ、両側から見上げると、何層にも彫り込まれた深彫りの奥行きが見てとれる。瑞泉寺にあって太子堂は、彫刻装飾の粋を集めた井波彫刻の殿堂とも言われる。仏具においても井波彫刻は優れた作品を生み出しており、なかでも井波彫刻総合会館にある「三草の仏具」と呼ばれる作品は、三つの経机を巧みに組み合わせたもので、その極めて繊細な手わざは見る人を唸らせる。

瑞泉寺の再建に端を発した木彫刻の技は芸術の粋まで昇華し、さながら井波の町は全体が木彫刻の美術館となった。すべては宮大工の鑿一丁から生まれたのである。

#### 【暮らしに根づく井波彫刻と職人の食】

瑞泉寺の背後の八乙女山を越えると、その先は五箇山の合掌造り集落に繋がる。この集落にも井波彫刻は人々の暮らしとともにある。家々には欄間が入り天神様や獅子頭が置かれ、五箇山の寺や神社の仕切り壁や手挟みには素朴で力強い井波彫刻が彫り込まれている。また、この地で代々伝えられて来た獅子舞は、春に豊年を願い、秋には収穫への感謝を表すもので、井波彫刻の獅子頭で勇壮に舞い踊る。

井波の南西に位置する城端地域の曳山祭は、京の華麗なる祭りの流れを汲むもので豪華絢爛たる曳山の飾りは、その多くが井波の木彫刻職人の手による。また、福光地域の神輿、福野地域の曳山や庵屋台にも井波彫刻が施され、これらの地域の豊年と繁栄を祈る祭りや催しなど、人々の暮らしにも井波彫刻は根づいている。

また、かつて木彫刻職人の修行時代を支えた食事には、地元の野菜で作られた「いとこ煮」や「よごし」と呼ばれる料理があり、ハレ（特別）の日には「どじょうの蒲焼」や「かぶら寿司」が食された。これらの食は、今は井波とその周辺地域の名物料理、家庭料理となり振る舞われている。

#### 【継承される伝統の技と広がる井波彫刻】

職人の彫り物は時代とともに変化してきた。瑞泉寺の寺社彫刻を起源とする井波彫刻は、明治以降、住宅欄間や獅子頭、置物、衝立などを手がけ、近年ではドアの装飾や照明器具といったインテリア、日用品や嗜好品などを手がけるなど、時代が求めるニーズに合わせて柔軟に対応し創作してきた。木彫刻のみで250年余も生き抜けたのはそれ故であり、井波のまちを見事な木彫刻の作品で埋め尽くすとともに、今も新しい木彫刻作品を創造し続けている。

現在、井波には木彫刻職人は250人を数え、200軒もの工房が高い技術で競い合う。井波には、木彫刻職人を目指す多くの若者が全国から集まり、修行し腕を磨き、一人前の職人となり井波でそして全国でその腕を振るう。受け継がれてきた高度な木彫刻の技は、日本各地の曳山や屋台、寺社仏閣や城郭などの彫刻に使われ、日本の伝統や文化を支えている。今や井波彫刻とその職人たちは、井波を木彫芸術のまちに造り上げただけでなく、日本の木彫刻文化を支える護り手となった。



勅使門に残る「獅子の子落とし」



太子堂の手挟み彫刻



五箇山合掌造り集落の獅子舞



城端曳山祭の曳山



鑿を振るう彫刻職人

## ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財の所在地
1	井波彫刻	未指定 (伝統的工芸品)	宝暦 12 年 (1762) の大火後の瑞泉寺再建の折、京都本願寺から派遣された御用彫刻師の技を、地元の宮大工が習ったのが井波彫刻の始まりである。現在も門前の八日町通りや本町通りには、多くの彫刻工房が軒を連ね、木槌の音を響かせている。	
2	いなみべついでんずいせんじ 井波別院瑞泉寺	市指定文化財 (建造物・史跡)	明徳元年 (1390) に創建された、井波彫刻誕生のきっかけとなった寺。本堂や太子堂、勅使門等において、欄間や龕股、手挟等、井波彫刻の粋を凝らした優れた装飾を数多く見ることができる。	
3	ずいせんじ 瑞泉寺山門	県指定文化財 (建造物)	山門に施された井波彫刻の多くは井波の宮大工 (彫刻師) の手によるものである。正面には京都本願寺の御用彫刻師、前川三四郎が彫った龍の彫刻欄間「雲水一足龍」が見られる。	
4	ずいせんじちよくしもん 瑞泉寺勅使門	市指定文化財 (建造物)	寛政 4 年 (1792) に再建された門で、小脇に日本木彫刻史上の傑作中の傑作とされる番匠屋七左衛門 (田村七左衛門) 作の「獅子の子落とし」が見られる。	
5	ずいせんじ 瑞泉寺太子堂	市指定文化財 (建造物)	井波彫刻の興隆期である大正期に再建された太子堂は、至るところに井波彫刻の傑作が飾られている。井波彫刻の殿堂ともいえる建造物である。	
6	うんすい いっぴきりゅう 雲水一足龍	県指定文化財 (建造物)	瑞泉寺山門にある彫刻で、京都本願寺の御用彫刻師、前川三四郎の作。生きているかのような龍の彫刻は、井波彫刻の原点ともいえる極めて秀逸な作品である。	
7	獅子の子落とし	市指定文化財 (建造物)	瑞泉寺勅使門にある井波彫刻。番匠屋七左衛門 (田村七左衛門) の作で、日本木彫刻史上の傑作中の傑作といわれている。	

8	だいろうへき 大 楼 壁	市指定文化財 (建造物)	宝暦12年(1762)の大火後、瑞泉寺の再建とあわせ築かれた石垣造りの防火・防風壁。
9	ようかまち 八日町通り	未指定	瑞泉寺へと続く石畳の通りには、多くの彫刻工房が軒を連ね、木槌の音を響かせる。通りの至るところに木彫刻が施され、木彫刻のまちの雰囲気をも感じられる場所である。
10	さいがけ 齋賀家住宅	国登録有形文化財	八日町通りにある、江戸時代の門前町の住宅様式を伝える町家。一階仏間、二階座敷において、井波彫刻の欄間を見ることができる。
11	町家の彫刻欄間	未指定	八日町通りの町家の屋内では、井波彫刻の代名詞とも言える彫刻欄間を見ることが出来る。中でも古い時代のものは高い評価を受けており、見応えある作品が多い。
12	町家の木彫刻看板と表札	未指定	八日町通りの造り酒屋など町家の看板や表札も井波彫刻である。八日町通りを中心に、三日町通りや六日町通り等の各家々にも井波彫刻の表札や門燈などが掲げられている。
13	ほんまち 本町通り	未指定	本町通りから八日町通りを上がり、瑞泉寺へと続く。通りには彫刻工房をはじめ、鑿屋や彫刻刀屋などの関連店舗が軒を連ねる。
14	井波町物産展示館 (旧井波駅舎)	国登録有形文化財	代々瑞泉寺の大工棟梁をつとめた松井角平の手による旧駅舎で、かつては参拝客を迎い入れる玄関口であった。総檜造りで、欄間彫刻や <sup>かざるまた</sup> 鬘股を用いた仏閣風の意匠に特徴がある。
15	じょうれんじ 浄蓮寺の おきなづか くらかみあん 翁塚と黒髪庵	市指定文化財含む (史跡)	八日町通りの裏通りにある、俳人芭蕉ゆかりの場所。芭蕉の弟子であった瑞泉寺11代浪化上人150回忌に黒髪庵の庭内に芭蕉堂が建てられ、井波彫刻の芭蕉像が安置されている。

16	きゅうろうすい 白浪水	市指定文化財 (史跡)	瑞泉寺の開基 <sup>しやくによしやうにん</sup> 綽如上人が乗っていた馬の足かきによって湧き出たと言われる霊泉。「井波」と言う地名や、瑞泉寺の発祥の地とされる。
17	かいこどう 井波の蚕堂	市指定文化財 (建造物)	瑞泉寺の東に位置する養蚕社。井波の宮大工が建造した社殿「蚕堂」には、見事な木組みと細工が施され、随所に井波大工の技が見られる。本殿の両脇には、蚕にかかわる馬や桑葉の井波彫刻が見られる。
18	井波彫刻総合会館の 木彫刻作品群	未指定	管内は瑞泉寺の伽藍配置をモデルにしている。豪華絢爛な欄間をはじめ衝立・獅子頭・天神様、など数百点に及ぶ井波彫刻の作品が展示されている。
19	さんしよく ぶつぐ 三卓の仏具	未指定	番匠屋 11 代目田村与八郎の作で、大・中・小の経机、香炉台を組み合わせた仏具である。施された彫刻は極めて精緻で精巧であり、井波彫刻の最高傑作のひとつとされる。
20	越中一宮高瀬神社	市指定文化財 (史跡)	本殿などで見事な井波彫刻を見ることができる。旧本殿は天保7年に建立された井波彫刻の粋を尽したものである。
21	やおとめやまとりづか かざあな 八乙女山鶏塚と風穴	市指定文化財 (史跡)	八乙女山の風穴から吹き下ろす「井波風」と呼ばれる強風が災いし、瑞泉寺は幾度となく大火にあい、再建が繰り返されてきた。山頂近くに風穴があり、8 世紀ごろ、越前の僧が <sup>ほこら</sup> 祠を建て、風の神をしずめたと伝えられている。
22	えっちゅうごかやまあいのくら 越中五箇山相倉集落	国指定史跡	地主神社拝殿の脇戸には「獅子の子落とし」の図が彫刻され、合掌造り家屋では井波彫刻の欄間を見ることができる。春祭りには、井波彫刻の獅子頭を付けたむかで獅子が集落を舞い歩き、五穀豊穡や家内安全を祈願する。
23	五箇山の寺社群	未指定	五箇山は浄土真宗の信仰が篤い土地柄であり、瑞泉寺との繋がりも深く、五箇山にある寺、念仏道場、神社の多くに井波彫刻が施されている。

24	じょうはな 城端神明宮祭の 曳山行事	国指定 無形民俗文化財	毎年5月初めに行われる城端神明宮の春季祭礼において、井波彫刻で装飾された豪華絢爛な曳山が町内を巡行する。通年、城端曳山会館で展示されている。
25	庵屋台	市指定文化財 (工芸品)	城端神明宮の春季祭礼において、曳山とともに町内を巡行する屋台。井波彫刻による精緻な欄間がはめ込まれている。通年、城端曳山会館で展示されている。
26	ふくの 福野神明社 春季祭礼曳山	市指定文化財 (有形民俗文化財)	福野神明社の春季祭礼において、町内を巡行する曳山と庵屋台に、井波彫刻の見事な装飾を見ることができる。
27	宇佐八幡宮春季祭礼	未指定	福光にある宇佐八幡宮の春季祭礼において、神輿や獅子舞とともに町中を巡回する庵屋台に、井波彫刻の装飾を見ることができる。
28	井波八幡宮の 春季例大祭	未指定	井波八幡宮の春季例大祭において、八日町通りなど町内を巡行する大神輿や提灯屋台に井波彫刻の装飾を見ることができる。奉納される獅子舞の獅子頭も井波彫刻である。
29	きやり 木遣踊り	未指定	江戸時代、焼失した瑞泉寺を再建する為、遠く五箇山から大木を運んだ際に歌われた唄が起源とされる民俗芸能。毎年、瑞泉寺の伝統行事「太子伝会」の際、踊りが奉納され、八日町通りでは木遣り踊りの町流しが行われる。
30	よごし	未指定	かつて、彫刻職人の修行時代を支えた食事の一つ。野菜を茹で細かく切り、味噌で味付けした郷土料理。
31	いとこ煮	未指定	小豆などを煮た郷土料理で、かつては、彫刻職人の修行時代を支えた食事の一つである。
32	どじょうの蒲焼	未指定	かつて、ハレの日に食された食事の一つ。栄養豊富であり貴重な栄養源として今も彫刻職人に親しまれている。
33	かぶら寿司	未指定	かぶらに切り込みを入れ、鰯・鯖などを挟んで発酵させたもの。正月料理として今も彫刻職人に好んで食されている。

構成文化財の写真一覧

1. 井波彫刻



2. 井波別院瑞泉寺 ※写真は本堂



3. 瑞泉寺山門



4. 瑞泉寺勅使門



5. 瑞泉寺太子堂



6. 雲水一疋龍 ※瑞泉寺山門の彫刻



7. 獅子の子落とし ※瑞泉寺勅使門の彫刻



8. <sup>だいろうへき</sup>大櫓壁



9. <sup>ようかまち</sup>八日町通り ※下2枚は通りにある看板等



10. <sup>さいがけ</sup>齋賀家住宅



11. 町家の彫刻欄間



12. 町家の木彫刻看板と表札 ※写真は造り酒屋



13. 本町通り



14. 井波町物産展示館 (旧井波駅舎)



15. 浄蓮寺の翁塚と黒髪庵  
じょうれんじ おきなづか くろかみあん



16. 白浪水  
きゅうろうすい



17. 井波の蚕堂  
かいこどう



18. 井波彫刻総合会館の木彫刻作品群



19. <sup>きんしよく</sup>三草の仏具



20. 越中一宮高瀬神社



21. <sup>やおとめやまとりづか かざあな</sup>八乙女山鶏塚と風穴



22. <sup>ごかやまあいのくら</sup>越中五箇山相倉集落 ※左は相倉集落の獅子舞。右は地主神社脇戸の彫刻「獅子の子落とし」



23. 五箇山の寺社群



24. 城端<sup>じょうはな</sup>神明宮祭の曳山行事



25. 庵屋台



26. 福野<sup>ふくの</sup>神明社春季祭礼曳山



27. 宇佐八幡宮春季祭礼



28. 井波八幡宮の春季例大祭



29. <sup>きやり</sup>木遣踊り



30. よごし



31. いとこ煮



32. どじょうの蒲焼



33. かぶら寿司



## 日本遺産を通じた地域活性化計画

認定番号	日本遺産のタイトル
59	宮大工の鑿一丁から生まれた木彫刻美術館・井波

## (1) 将来像 (ビジョン)

## 【これまでの経緯と課題・成果】

平成30年(2018年)5月に、地域住民の念願であった、瑞泉寺を中心とした井波のまち全体が「宮大工の鑿一丁から生まれた木彫刻美術館・井波」として、日本遺産に認定され、町内の各団体・企業、有志、学校、そして地域内外の井波を愛する多くのファンが歓喜に包まれ、日本遺産となったこの地域と井波に暮らす人々を100年、200年先までも継承しようと、新しい井波の風を吹かせる活動を進めている。

井波のまちは、瑞泉寺の創建(1390年)とともに門前町として形づくられてきた。江戸時代中期に瑞泉寺が大火で焼失をし、その再建の際に京都より御用木彫刻師・前川三四郎が派遣され、井波の宮大工たちに木彫刻の技を教えたことから井波彫刻が生まれた。その技は井波の地で脈々と磨き受け継がれ、井波彫刻は木彫芸術と言われるまでになり、この地の一大産業となった。今現在、井波のまち全体が木彫刻で飾られている姿は、まるで野外美術館であるかのような魅力に溢れているが、井波の全国的な認知度・知名度は決して高くなく、井波彫刻も一部の美術家や建築関係者、木彫刻愛好者などに知られているだけであり、まちの歴史的・景観的な価値について知る人は少なく、井波を訪れる国内外の観光客も多くはない。

日本遺産認定を契機として、井波日本遺産推進協議会を設立し、実行組織として地域の若い方々によるワーキンググループを設置した。日本遺産推進協議会には、地域住民をはじめ行政が一体となり、それぞれの役割と立場を明確にした推進体制を構築し、互いに連携を図り、事業の推進と地域の活性化を図ってきた。

また、南砺市では日本遺産認定により、世界文化遺産「五箇山の合掌造り集落」、ユネスコ無形文化遺産「城端神明宮祭の曳山行事」の3つの遺産を結ぶ「トライアングル構想」が形成され、南砺市全域に歴史と文化に彩られた異なる魅力を持つ周遊型観光と滞在型観光が確立することで、多彩な観光圏として地域振興と活性化を推進してきた。

## 【中長期的な地域のあるべき姿】

南砺市総合計画など上位計画との整合性を図る事が重要であり、「南砺市総合計画」の目指すべき将来像に掲げる「心豊かな暮らしができるまち」として、多様で豊かな自然・歴史・文化を活かし、心豊かな人材育成や文化芸術振興、地域内外との交流・連携などを図り、産業振興や定住対策を講じ、創造的で活力ある地域づくりを目標としており、その実現に日本遺産による取り組みを重要な施策として位置づけ、市として一体的にその取り組みを支援し、他の施策分野とも連携させながら、将来像実現に向けた取り組みを推進する。また、「南砺市交流観光まちづくりプラン」では、「歴史・文化を百年先の未来につなぐ南

砺」そして「ひとと技術で拓く南砺の未来」を目指すべき将来像として、「一丸となって観光で稼ぐ」「観光を支える人づくり」「地域の個性を活かした観光の推進」、基本戦略には「五箇山・井波を起点とした周遊観光・観光的付加価値の創造」等を主な柱とし取り組むこととしている。その中でも日本遺産に認定されている「井波彫刻」や「井波の歴史的まちなみ・瑞泉寺」等は重要な観光資源として位置付けられている。

これらの上位計画と整合性を保ちながら、来訪者・地域住民・民間事業者のあるべき姿として、地域の振興と活性化を図るには、井波の歴史と伝統・文化を基に、井波彫刻の卓越した技と井波の町並みの美しさ等、井波の魅力を国内外の方々により深く知っていただく為、「日本遺産井波」として再生を図らなければならない。

日本遺産井波には「瑞泉寺」をはじめ「井波彫刻」と「歴史的なまちなみ」の他、有形・無形の魅力ある地域資源があり、それらを活かしたまちづくりを推進し、更にはその原動力となる各分野での若手のプレーヤーを育て、まちづくり・観光地づくりを推進していく。

地域住民・民間事業者のあるべき姿としての具体的な取組みとして、日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化を推進する。井波日本遺産協議会から派生した若者の組織、ワーキンググループの活発な活動により、多くのプレーヤーを巻き込み、地域住民のまちづくりへの関心を高めるなど、地域に好影響を与え、日本遺産推進事業「日本遺産井波を継ぐ人材育成 三四郎プロジェクト」事業の波及効果として、一般社団法人「ジソウラボ」が誕生し、地域プロデューサーとして活動し、民間事業者として人材育成事業の原動力として活発な活動を開始している。

また、様々な地域課題に取り組む新たな組織として、日本遺産井波へのアクセスの改善等の公共交通を検討する「イドウラボ」、日本遺産の構成要素である、瑞泉寺の中心市街地の空き家・空き店舗の活用を推進する「アキヤラボ」、中心市街地で事業を営む事業所等の事業継業を推進する「継業ラボ」が設立され、民間主導のまちづくりが推進されている。

これらの若者が民間主体の組織活動を展開した結果、2016年から2023年の7年間で、井波地域の空き家・空き店舗が48軒も再生され、全国でも高い評価を受け、県内外からの視察も多数あり先進地となっている。

今後は、これらの若者の総合組織として誕生した「イナミライ」の積極的な活動により、人を呼び込むまちづくりの流れ、「まざりあい、つづけるまち 井波」の実現を目指して、日本遺産井波も包含した「地域ビジョン」を策定し、更には一般社団法人「まちづくり会社」の設立に向けての取組みを開始する。

更には、コミュニティ活動の中核組織として、地域全体の組織を網羅する「地域づくり協議会」（自治振興会）組織と「日本遺産推進協議会」と一体となった活動を展開し、井波地域の組織の総力を結集して、交通・観光・文化財保存活用等の地域課題の解決や観光・地域活性化の推進に積極的に取り組んでいく方針である。

**【文化財の保存・継承と文化資源の活用による好循環】**

日本遺産の認定を契機として、多くの地域住民や若者たちも、文化財を活用してのまちづくりについて、瑞泉寺への原点回帰の認識を新たにし、日本遺産井波を未来へ継承する機運が高まってきている。

井波日本遺産構成文化財の中核である瑞泉寺の未来継承を考える、民間組織「瑞泉寺未来継承推進委員会」が設立され、商工会・ガイド・文化財審議委員・大学教授・中学校生徒による、「未来継承シンポジウム」や「瑞泉寺の文化財昇格を目指しての鼎談会」等を開催し、日本遺産や文化財を活用した地域づくりについての意見を集約することとしている。

また先般、富山県内で初めて認定をいただいた「南砺市文化財保存活用計画」には「市民一人ひとりが、南砺文化に愛着と誇りを持つことができるよう、価値を損なうことなく醸成して次世代へと継承する」との基本目標のもと、文化財の保存活用事業として、歴史文化の特徴から一つのストーリーとしてまとめ、特に重点事業として、日本遺産井波の中核である「瑞泉寺建造物調査」に取り組み、瑞泉寺の国重要文化財指定への取り組みを進めることとしている。

日本遺産認定を契機として、瑞泉寺の国指定の文化財昇格を目指しての活動により、地域住民の意識の高揚・シビックプライドの醸成が進化・深化・真価され、瑞泉寺や井波彫刻をはじめとする文化財や伝統工芸など、改めて祖先から受け継いできたものの尊さを再認識し、地域に対する市民の誇りや愛着が醸成され、想定を超えた波及効果が派生している。瑞泉寺が国指定の文化財昇格となれば、更なる地域住民の意識が高まり、来訪者についても、国指定文化財としての価値が評価され、多数の来訪者の増加につながるものと確信している。

日本遺産認定によって目覚めた住民は、今「井波ビジョン」の実現化と「瑞泉寺未来継承」国重要文化財への昇格という、2つの大きなビジョンの達成に向けて動き出している。

**(2) 地域活性化計画における目標**

※各目標に対し、複数の指標を設定可

<b>目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること</b>						
<b>指標①－A：観光客入込み数（千人）</b>						
年度	実績			目標		
	2021	2022	2023	2024	2025	2026
数値	88	92	163 1～12月計	168	173	178
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	具体的な指標（指標名称）：井波への国内観光客入り込み数 設定根拠：近年実績は2015年度213千人、2016年度194千人である。2017年度は前年度同程度と想定し、日本遺産認定となった2018年度以降は毎年、対前年比で平均10千人増と設定していた					

	が、コロナウイルスにより大幅に減少した。2023 年の実績見込みは、コロナ明けで 163 千人と少し回復の兆しがあり、2024 年以降は対前年比で平均 5 千人増と設定
--	--

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること						
指標①-B：外国人観光客数（人）						
年度	実績			目標		
	2021	2022	2023	2024	2025	2026
数値	716	1,073	960	1,056	1,160	1,270
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	<p>具体的な指標（指標名称）：井波への外国人観光客入り込み数            設定根拠：把握している近年実績は 2016 年度 141 人である。2017 年度は前年度同程度と想定し、日本遺産認定となった 2018 年度以降は毎年、対前年比で 50%の伸び率を設定していたが、コロナウイルスにより大幅に減少した。2023 年の実績は 960 人であり、2024 年以降は対前年比で 10%増と設定</p>					

目標②：地域において日本遺産のストーリーが誇りに思われること						
指標②-A：地域の文化に誇りを感じる住民の割合（%）						
年度	実績			目標		
	2021	2022	2023	2024	2025	2026
数値	67.2	68.0	65.0	65.6	66.2	66.8
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	<p>具体的な指標（指標名称）：市民意識調査の「地域に誇り・愛着を感じている」の割合            設定根拠：2016 年度は 69.6%、2017 年度は 69.3%と減少している。2018 年度以降は、毎年度、前年対比 1%の伸び率を設定していたが、直近の 2023 年度は 65.0%であり、2024 以降は毎年度、前年対比 1%の伸び率を設定            ※調査は毎年 5 月上旬から中旬にかけて実施</p>					

目標③：日本遺産を活用した事業により、経済効果が生じること						
指標③-A：経済効果（千円）						
年度	実績			目標		
	2021	2022	2023	2024	2025	2026
数値	43,769	73,230	80,785 4~1 月計	81,590	82,400	83,200

指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	<p>具体的な指標（指標名称）：道の駅いなみ木彫りの里の売上額</p> <p>設定根拠：売上額の近年推移は2015年度から2016年度で-22%であった。2017年度は前年度同程度と想定し、2018年度以降は毎年、対前年比で4%の伸び率を設定していたが、コロナウイルスにより大幅に減少した。2023年の実績見込みは、コロナ明けで回復の兆しがあり、2024以降は毎年度、前年対比1%の伸び率を設定</p>
---------------------	---

目標④：日本遺産のストーリー・構成文化財の持続的な保存・活用が行われること						
指標④-A：日本遺産への協力団体数(団体)						
年度	実績			目標		
	2021	2022	2023	2024	2025	2026
数値	6	7	8	9	10	11
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	<p>具体的な指標（指標名称）：井波日本遺産推進協議会の取組みに対する参画事業者数</p> <p>設定根拠：井波日本遺産推進協議会に今後新たに参画する事業者について、2018年度以降、毎年度1事業者の増加を設定し順調に増加している、2021年度以降も毎年度1事業者の増加を設定</p>					

目標④：日本遺産のストーリー・構成文化財の持続的な保存・活用が行われること						
指標④-B：日本遺産のためのふるさと納税額(千円)						
年度	実績			目標		
	2021	2022	2023	2024	2025	2026
数値	8,764	8,922	7,551 4~1月計	8,300	9,130	10,000
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	<p>具体的な指標（指標名称）：寄付項目「教育・文化の振興、世界遺産の保全に関すること」の寄付金額</p> <p>設定根拠：2017年度は前年度と同額程度と想定し、2018年度以降は毎年度、対前年度比20%の伸び率を設定していたが、ふるさと納税額は順調に増加している。2023年(途中経過)は7,551千円であり、2024年以降は対前年比で10%増と設定</p>					

目標④：日本遺産のストーリー・構成文化財の持続的な保存・活用が行われること						
指標④-C：日本遺産のための寄付額(千円)						
年度	実績			目標		
	2021	2022	2023	2024	2025	2026
数値	2,614	880	932	800	800	800

指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	<p>具体的な指標（指標名称）：クラウドファンディング、サポーター制度等の導入による寄付額</p> <p>設定根拠：2018年度の目標を1,000千円とし、以降毎年度、前年対比で50%の伸び率を設定していたが、クラウドファンディングを毎年実施することには無理があり、2022年2023年の2カ年の特殊要因を除いた実績を勘案して、毎年800千円の確保を寄付目標として設定</p>
---------------------	--

目標⑤：地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること						
指標⑤-A：雇用の創出(人)						
年度	実績			目標		
	2021	2022	2023	2024	2025	2026
数値	1	2	4	5	6	7
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	<p>具体的な指標（指標名称）：一般社団法人「井波日本遺産推進機構」（仮称）の設立による雇用創出</p> <p>設定根拠：井波日本遺産推進協議会の活動により自立的・継続的な運営を可能にし、2021年3月を目標に一般社団法人井波日本遺産推進機構（仮称）を設立し、新たな雇用を創出することを従前の指標としていたが、日本遺産推進事業により、2020年より民間主導の一般社団法人が複数誕生しており、2024年度以降には、まちづくり会社の一般法人設立を検討していることを勘案して、雇用の創出を毎年1名増設定。</p>					

（3）地域活性化のための取組の概要
<p>①日本遺産井波ブランドを構築し、国内外に向けて井波の木彫り文化とまちの魅力を発信する。</p> <p>これまでも地域のブランド構築について、様々な取り組みを行ってきたが、十分にその魅力を旅行企画会社やエンドユーザーにまで伝えきれていなかった。</p> <p>日本遺産井波の構成文化財・特色ある地域資源である、井波彫刻・瑞泉寺を最大活用した、特別感を感じることができる、ブランド戦略を展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・井波彫刻と井波のまちの国内外での知名度を高めるために、日本遺産井波のブランドを構築し、統一したイメージ戦略や観光商品等の競争力を高めるとともに、その魅力を発信する。</li> <li>・日本遺産の構成文化財である、井波彫刻は今も約200名の彫刻師が、江戸中期からの彫刻技術を受け継いでいる。特に「井波別院瑞泉寺」は精密な彫刻が随所に施されており、従来からも井波ブランドとして位置付けていた。</li> <li>・新たな、特別感を感じられるブランド戦略として、これまでは夕刻には閉門される瑞泉寺に</li> </ul>

於いて、夜間ツアーを特別に企画し、寺院内の彫刻をライトアップし、井波彫刻師が解説するナイトミュージアムを展開し、新たな井波ブランドを構築し、井波彫刻・瑞泉寺への理解を深掘する。

②国内観光客及び訪日外国人が木彫体験や周遊観光しやすい環境を整備する。

これまでも、体験や周遊観光を推進する環境整備に務めてきているが、外国人観光客の来訪は少ない状況で有り、インバウンドの受け入れ環境は脆弱であった。

・井波地域に訪れる観光客のため、瑞泉寺や井波彫刻、井波のまちを詳しく知るための案内表示板やwi-fi環境の整備、観光マップ・パンフレット、井波物語（歴史や文化等井波地域の観光資源の説明書）等多言語化を進め、日本遺産井波の魅力をより多くの国内観光客及び訪日外国人に周知する。

・北陸新幹線の敦賀延伸並びに2025年の大阪万博の開催により、外国人・国内旅行者と多くの方が南砺へも訪れることが期待されており、これを好機として、南砺市観光協会・井波彫刻協同組合・井波別院瑞泉寺が連携して、これまでにない旅行企画商品(ナイトミュージアム)を販売する。

・2025年の大阪万博の開催や国のインバウンド施策などにより、多くの外国人が南砺へも訪れることが期待されている。南砺を訪れる訪日観光客が、目的地まで安全かつ迷わずに移動でき、楽しくまち歩きが楽しめるサイン整備やAIチャットボットの提供を推進する。

③地域住民の意識向上・啓蒙と日本遺産井波の普及啓発

これまでも、意識向上・啓蒙、普及啓発に務めてきたが、小中学校との連携により、子供たちへの啓蒙普及は、井波に特化した「日本遺産検定」を実施する等、毎年成果を上げているものの、地域住民については、具体的な普及啓発の実施が難しい状況であった。

・日本遺産認定を契機として、日本遺産構成文化財の中核である瑞泉寺の未来継承を考える意識が高まっており、民間組織「井波別院瑞泉寺未来継承推進委員会」が設立された。

今後は、瑞泉寺の国指定文化財昇格を目指して、商工会・ガイド・文化財審議委員・大学教授・中学校の男女による、「未来継承シンポジウム」等を開催し、日本遺産や文化財を活用した地域づくりについての意見を集約し、南砺市長に提言する。

・地域住民に対して、井波彫刻をはじめとする文化財や伝統工芸など、改めて祖先から受け継いできたものの尊さを再認識し、地域に対する市民の誇りや愛着が醸成されるよう、啓発活動を展開する。

・日本遺産未来継承講座を、学校側との連携協力により、地元小中学生全児童・生徒を対象として、総合学習「井波のまち歩き」調査や研究発表・シンポジウム等を展開する。

井波中学校では、井波をさらに魅力ある地域とする方策を、生徒らが調査・検討し、「木遣り踊りを学ぶ」、「井波のよさを再発見」「井波のよさコンテスト」等を実施する。

井波小学校では、「木遣り踊り体験」、「彫刻師から技を学ぶ体験」、「井波日本遺産ふるさと検定」を実施する。

④井波地域の伝統産業である「井波彫刻」と「瑞泉寺の信仰」などを活かした観光で振興を図る。

これまでも観光振興について、北陸飛騨三ツ星街道推進協議会や金沢南砺推進協議会等の広域連携を図り、首都圏のエンドユーザーをターゲットとして、様々な取り組みを行ってきているが、十分にその魅力をエンドユーザーにまで伝えきれていなかった。

今後は、関西圏・中京圏をターゲットとして、日本遺産井波の構成文化財・特色ある地域資源である、井波彫刻・瑞泉寺を最大活用した、観光振興を推進する。

- ・JR西日本において、北陸デスティネーションキャンペーンの商品として、「瑞泉寺ナイトミュージアム」の販売を計画している。地元の特色ある地域資源である、井波彫刻・日本で4番目の規模を誇る木造伽藍の瑞泉寺本堂や井波彫刻で飾られている日本最大の太子堂等の文化財を活用した特別な企画商品の販売を強化する。

- ・「瑞泉寺ナイトミュージアム」の実施にあたっては、井波彫刻組合の彫刻師の解説や夕刻には閉門されていた井波別院瑞泉寺のご理解により、夕刻・日没からのツアーの実施が可能となり、今後も改善・改良を重ね、魅力ある旅行商品として、地域の特性を活用し観光振興を推進する。

- ・井波のまちは北陸随一の木造伽藍を誇る瑞泉寺と最高峰の木彫り・井波彫刻（伝統的工芸品）と職人たちが築いたまちであることを国内外の観光客に知って頂くとともに、これらの魅力があいまって、さらに井波地域の魅力を拡大すると共に、これらに関わる新たな観光産業等を創出する。

#### ⑤井波日本遺産推進協議会による民間主導のまちづくりを推進する。

これまでは、日本遺産認定を契機として、井波日本遺産推進協議会を設立し、実行組織として地域の若い方々によるワーキンググループを設置した。日本遺産推進協議会には、地域住民をはじめ井波彫刻組合等の各種団体・グループ、事業者、ボランティアグループ並びに行政が一体となり、それぞれの役割と立場を明確にした、推進体制を構築し、互いに連携を図り、事業の推進と地域の活性化を図る。

- ・日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化の動きは、井波日本遺産協議会から派生した若者の組織の活発な活動により、多くのプレーヤーを巻き込み、地域住民のまちづくりへの関心を高めるなど、地域に好影響を与えている。

- ・日本遺産推進事業「日本遺産井波を継ぐ人材育成 三四郎プロジェクト」の波及効果として、一般社団法人「ジソウラボ」が誕生し、地域プロデューサーとして活動し、人材育成事業の原動力として活発な活動を開始し、様々な地域課題に取り組む新たな組織として、日本遺産井波へのアクセスの改善等の公共交通を検討する「イドウラボ」、日本遺産の構成要素である、瑞泉寺の中心市街地の空き家空き店舗の活用を検討する、「アキヤラボ」・中心市街地で事業を営んでいる事業所等の事業継業を推進する「継業ラボ」が設立され、民間主導のまちづくりが推進され多大な成果を上げている。

- ・日本遺産認定を好機として、2016年から2023年の7年間で、井波地域の空き家・空き店舗が48軒も再生され、日本遺産だけではなく、地域全体のまちづくりを推進する為、日本遺産推進協議会ワーキング・アキヤラボ・イドウラボ・継業ラボ等の地域プロデューサーが中心となり、若者の総合組織として2023年に「イナミライ」が誕生し、人を呼び込むまちづくりの流れ、「まざりあい、つづけるまち 井波」の実現を目指して、2024年に向けての日本遺産井波も包含した地域ビジョンを策定し、今後はまちづくり会社の設立に向けての取組みを

開始予定である。

・従来から、コミュニティ活動の中核組織として、地域づくり協議会（自治振興会）が組織されているが、若者の組織との接点や情報共有は十分ではなかったと思われる。これの課題解決の為に、町内会長会や児童クラブ・福祉関係団体・観光協会・商工会等々の地域全体を網羅する組織「地域づくり協議会」と「日本遺産推進協議会」が一体となった活動を推進し、交通・観光・文化財保存活用等の地域課題解決や地域活性化の推進に積極的に取り組んでいくこととする。

⑥井波の歴史あるまちなみの景観を保全・整備し、井波地域の魅力を創出する。

これまでも、瑞泉寺の門前町として発展した八日町通りと本町通り、そして周辺の通りに点在する職人の工房と歴史的建造物である町家など、歴史と伝統あるまちなみを井波の周遊観光の重要な資源として捉え、旧井波美術館の取り壊しを市と協議して耐震工事を行ない、民間企業が新たな魅力ある施設として再生を図っている。また六日町町内会では県の景観条例に基づく住民協定を締結し町並みの保全・修景を図っている。

・ 今後は、富山県内で最初に認定された「文化財保存活用地域計画」に基づく近代和風建築調査事業の実施による調査研究を推進し、日本遺産井波の中核である「井波別院瑞泉寺」の保存活用について、国指定の重要文化財への昇格を目指す。

・ 文化庁・観光庁等の補助事業を活用し、北陸新幹線の敦賀延伸並びに 2025 年の大阪万博の開催を視野に入れた高付加価値企画商品の開発・造成・販売を促進する。

・ 日本遺産推進事業によって 10 年ぶりに復活した、「令和踊り屋体」の踊り子の育成と伝承の為、子供の踊り子を地元小学校児童から募集し、日本遺産井波のシンボルとして、踊り屋体の披露並びに踊りの披露を継続して実施する等、井波の歴史あるまちなみの景観を保全・整備し、井波地域の魅力を創出する。

⑦ウェブサイト・SNS・PR動画等による、情報発信体制の整備と継続的な情報発信

これまでは、日本遺産を活用した、講演会・勉強会をはじめとして、地域の魅力や起業者・移住者へのサポート情報及び好事例の紹介など、日本遺産や地域づくりに関連する地域の魅力やイベント情報の発信を随時おこなってきたが、タイムリーな情報発信や情報の更新等に課題があった。

今後は、「地域おこし協力隊員」を日本遺産担当として専従することで、日本遺産井波の情報発信や広報活動・SNS等について積極的に活動し、SNSの投稿頻度を高め、またYouTubeチャンネルを開設し、フォロワー数を伸ばすように努める。

更には、祭事や新しい取り組みをはじめ、講演会の記録等を速やかにYouTubeなどで発信し、さまざまな情報を広く知ることができる媒体として、地域内外の方への認知度を高めていく。

・ 日本遺産ポータルサイトにイベント情報の投稿を開始し、地域づくり協議会や南砺市観光協会のHPとリンクして、多くの方々に情報が届くように勤めると共に、ジソウラボ等の民間のSNSとも連携を深め、地域全体での情報発信を図る。

・ 構成文化財の中核である、瑞泉寺に於いて、年間を通じて毎日、日本遺産推進事業で製作した「日本遺産井波」のDVDを放映し、日本遺産井波の構成文化財等を紹介するタペストリーを常設展示する等、さらなる情報発信体制の整備と継続的な情報発信に務めていきたい。

#### (4) 実施体制

##### <従来の実施体制>

- ・ 協議会の名称

井波日本遺産推進協議会

- ・ 構成団体 :

井波地区自治振興会、南砺市観光協会井波支部、井波彫刻協同組合、南砺市商工会井波支部、南砺市商工会井波支部女性部、南砺市商工会井波支部青年部、観光ガイド「井波の風」、(株)井波木彫りの里、井波別院瑞泉寺、B&C TATEGU-YA、NPO 法人心泉いなみ、(株)まちづくり井波、(公社)となみ青年会議所、南砺市井波行政センター、南砺市交流観光まちづくり課、南砺市商工課、南砺市文化・世界遺産課

- ・ 協議会を円滑に運営するための仕掛け :

協議会が主導し、最終的な意思決定は 15 名程度で構成する協議会が行う。また、協議会のもとにワーキンググループを設置する。

ワーキンググループは「情報発信グループ」「人材育成グループ」「普及啓発グループ」「調査研究グループ」「施設環境整備グループ」(何れも仮称)の 5 グループで構成。協議会メンバーが各ワーキンググループに加わり、具体的な取組を進めていく。協議会には正副会長を任命し、各ワーキンググループには正副リーダーを任命する。正副会長及びリーダーの任命権は協議会が持ち、適任者を任命する。

推進にあたって、市と連携をとる為、協議会の正副会長と市の担当職員で構成する「井波日本遺産執行会議」(仮称)を設置し、協議会と市で連携を図りながら推進していく。なお、将来像達成に向けた各種取組の確実な推進のため、地域活性化の実績のある外部専門家の協力を受ける。

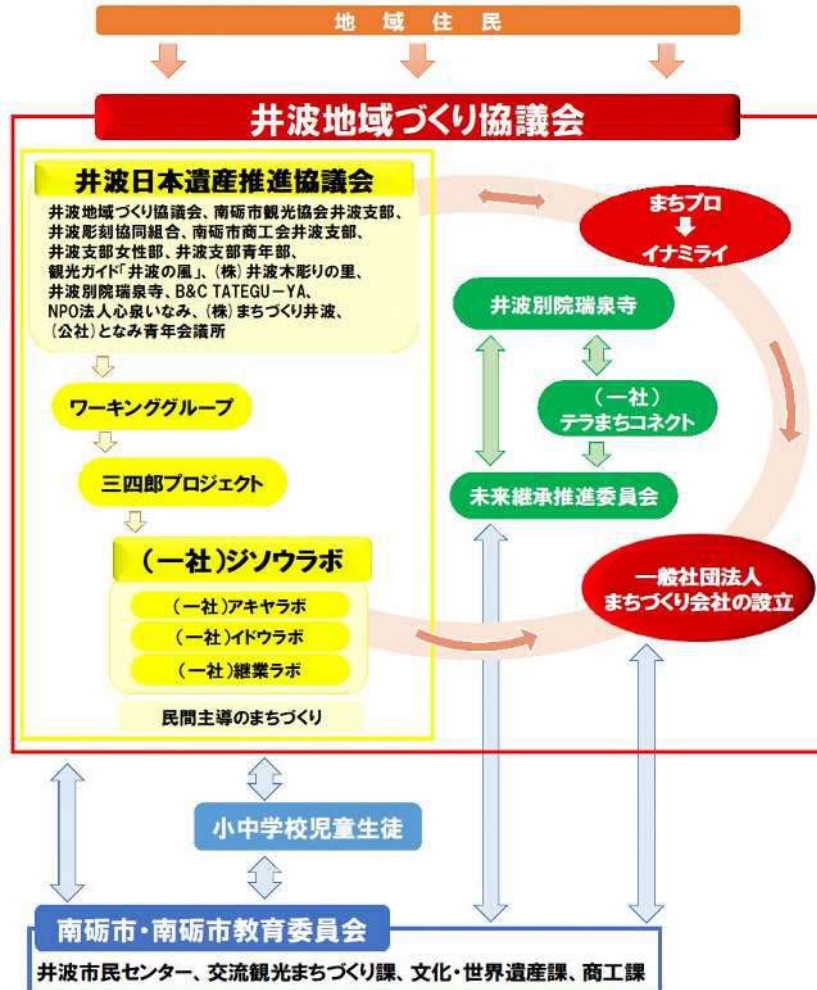
- ・ 将来的には DMO を目指せる体制にしていく

協議会が主導して、ワーキンググループが中心となり実質的な事業の推進をしていく。

平成 32 年度(平成 33 年 3 月)を目標に地域が活性していく中で、協議会がまちづくりの法人化を目指す。(一般社団法人「井波日本遺産推進機構」(仮称))

平成 33 年度からは、この法人を軸に自立的・継続的に運営・推進していけるよう取組を進める。

〈新たな実施体制〉



[人材育成・確保の方針]

日本遺産によるまちづくりを推進する為には、人材育成が重要な役割を果たすと考える。井波日本遺産の事業推進に当たっては、「日本遺産井波を継ぐ人材育成 三四郎プロジェクト」を実施し、その波及効果として、一般社団法人「ジソウラボ」が誕生し、地域プロデューサーとして活動しており、人材育成の原動力として活発な活動を開始し、様々な地域課題に取り組む新たな組織として、「イドウラボ」・「ジソウラボ」・「継業ラボ」が設立され、民間主導のまちづくりが展開されている。

今後は、コミュニティ活動の中核組織である、地域づくり協議会（自治振興会）と一体となって日本遺産事業の推進や人材育成活動を進めていく。

また、学校教育との連携し、地元小中学生全児童・生徒を対象とした、日本遺産検定などのふるさと学習等により、日本遺産井波への理解を深め、井波をさらに魅力ある地域とする方策を、生徒らが調査・検討し、特に構成文化財でもある「木遣り踊り」について、小学生・中学生も踊れるように、伝承することで子供たちのシビックプライドの醸成や成長してからの中長期的な人材育成につながるものと考えている。

どの主体がどのような役割を果たすのか

井波日本遺産推進協議会・・・日本遺産推進事業についての企画・立案・事業実施

井波地域づくり協議会・・・日本遺産事業も包含した、地域課題全般の企画・立案

ワーキンググループ・三四郎プロジェクトは、ジソウラボに発展

・・・日本遺産事業・地域づくり事業全般の事業実施主体

まちプロは、イナミライに発展・・・地域づくり全般の企画・立案と事業実施主体  
未来継承推進委員会・日本遺産の中核である構成文化財「瑞泉寺」の文化財保存活用の企画・立案・実施  
テラまちコネクト・・・瑞泉寺と地域住民をつなぐ企画・立案、てらまち雑貨店運営  
まちづくり会社・・・日本遺産事業も包含した、地域課題全般の事業実施主体

#### (5) 日本遺産の取組を行う組織の自立・自走

①井波日本遺産推進協議会は、日本遺産の事業推進を含めた、まちづくりを創造する為、地域全体を統括する組織、井波地域づくり協議会(自治振興会)と一体となった組織の再整備をおこない、関連する団体や企業、住民の合意のもとに、持続可能な一元的管理体制を造りあげ、組織の運営や人的措置、資金の調達等に取り組む。

さらには、日本遺産を核とした、波地域の未来を描く「井波ビジョン 2040」実現に向けて、日本遺産を核としたまちづくりのため、若者が主体となった民間組織「まちづくり会社」の設立を推進する。

②井波日本遺産推進協議会は、南砺市並びに南砺市観光協会と連携し、日本遺産のストーリーと結びつく体験型コンテンツや構成文化財の中心である瑞泉寺の文化財を活用した地域の特性を活かした井波別院瑞泉寺ナイトミュージアム等の企画商品を造成販売し、観光案内をはじめ、駐車場の管理や日本遺産井波の観光関連事業者、宿泊施設、ガイド、飲食店・土産物店、体験メニュー等の紹介・斡旋を行い、対価を得る。

③井波日本遺産推進協議会は、観光商品の開発を積極的に行い、体験メニューや多様な観光コース、宿泊施設の魅力、料理や土産物の開発等々を推進する。

④北陸新幹線の敦賀延伸並びに 2025 年の大阪万博の開催により、外国人・国内旅行者と多くの方が南砺へも訪れることが期待されており、これを好機として、日本遺産推進協議会・南砺市観光協会・井波彫刻協同組合・井波別院瑞泉寺が連携して、これまでにない旅行企画商品(ナイトミュージアム等)を販売する。

更に、JR西日本において、北陸デスティネーションキャンペーンの企画商品として、瑞泉寺ナイトミュージアムの販売を計画している。大手旅行代理店や旅行業者との提携を結び、日本遺産井波へのコーディネーター役を果たし、その対価を得る。

⑤ふるさと納税に日本遺産への取り組みの項目を設け、日本遺産推進事業の財源とする。

⑥文化庁や観光庁等の補助事業を活用した、国庫補助事業を活用して、体験型コンテンツや瑞泉寺等の文化財を活用する等、地域の特性を活かした企画商品の開発・造成・これまでにない高付加価値の旅行商品の販売を図る。

⑦日本遺産推進事業によって10数年ぶりに復活した、日本遺産井波のシンボルとしての「令和踊り屋体」について、寄付金等の確保に務め、踊り子の育成と伝承の為、持続可能な方法での運営をおこなう。

#### (6) 構成文化財の保存と活用の好循環の創出に向けた取組

## 地域活性化計画における目標と期待される効果

- ①南砺市総合計画・交流観光まちづくりプラン・文化財保存活用地域計画に位置付けられている、日本遺産井波ブランドを明確にし、国内外に向けて井波の木彫り文化（地域コンセプト）をまちの魅力として発信し、特に日本遺産井波の中核である「井波別院瑞泉寺」の保存活用について、国指定の重要文化財への昇格を目指し、積極的に調査研究を行う。
- ②文化財保存活用地域計画に基づく近代和風建築調査事業等により、日本遺産井波の中核である瑞泉寺の国指定重要文化財への昇格を目指し、調査研究を実施し、日本遺産の構成文化財としての価値を高め、地域住民のシビックプライド並びに来訪者の増加を促進に繋げる。
- ③地域住民に対し日本遺産井波の認知・関心を高め、誇りに思えるシビックプライドの醸成を促進する為、学校教育との連携を図り、日本遺産井波の特色を活かした、文化財を活用した事業を展開し、普及啓発を行う。
- ④南砺市内での訪問先については、10年数前からJR東日本グループと連携し、世界遺産の「合掌造り」やユネスコ無形文化遺産「城端曳山祭り」並びに日本遺産「井波」をつないだ、3つの遺産を巡る「トライアングル構想事業」の展開を推進し、市全体の交流人口の増加と観光振興、地域の活性化に繋げる。
- ⑤地域づくり協議会（自治振興会）は、コミュニティ活動の中核組織として組織されており、地域の課題解決の為に、町内会長会や児童クラブ・福祉関係団体・観光協会・商工会等々の各種団体で構成されているが、日本遺産推進協議会も「地域づくり協議会」と一体となった活動を推進し、交通・観光・文化財保存活用等の地域課題解決や地域活性化の推進に積極的に取り組むこととする。
- ⑥日本遺産の認定により、地位は住民の意識に変革が起こっており、「瑞泉寺未来継承推進委員会」が民間組織として新たに組織され、日本遺産井波の構成文化財の中核である、瑞泉寺の国指定文化財昇格への機運が高まっている。南砺市教育委員会・富山県教育委員会・文化庁と調査研究を進めており、地域住民への講演会やシンポジウムを開催し、行政と民間が一体となった取り組みにより、歴史ある寺院やまち並みの継承に繋がり、住民が誇りを持って（シビックプライド）暮らせるまちの創出に繋がる。
- ⑦日本の各地では、伝統工芸や地域文化の衰退が余儀なくされている中で、国の伝統的工芸品に指定されている「井波彫刻」の若い人材を全国から確保するための新たな取組みとして、「井波彫刻塾」開講し、技術・伝統を確実に残し、持続可能な技術集団の形成に務め、更には、域外からの移住者の転入等により、活気のある町の創出にも繋がるものとする。

(7) 地域活性化のために行う事業

(7) - 1 組織整備

(事業番号 1 - A)

事業名	地域全体を統括する組織の再整備（コミュニティの再生・活性化）
概要	日本遺産の事業推進を含めたまちづくりの推進を創造する為、地域全体を統括する組織と一体となった組織の再整備

	取組名	取組内容	実施主体
①	井波地域づくり協議会（自治振興会）と一体となった組織の再整備	日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化の動きは、井波日本遺産協議会から派生した若者の組織の活発な活動により、多くのプレイヤーを巻き込み、地域住民のまちづくりへの関心を高めるなど、地域に好影響を与えている。 従来から、コミュニティ活動の中核組織として、地域づくり協議会（自治振興会）が組織されているが、若者の組織との接点や情報共有は十分とは言えなかった。 町内会長会や児童クラブ・福祉関係団体・観光協会・商工会等々の地域全体を網羅する地域づくり協議会と一体となる事により、交通・観光・文化財保存活用等の地域課題解決や地域活性化の推進に積極的に取り組んでいく。	井波地域づくり協議会・井波日本遺産推進協議会
②			
③			
④			

年度	事業評価指標	実績値・目標値
2021	・地域活性化の活動の頻度	20
2022	ワークショップや勉強会等、地域活性化のための	22
2023	ワークショップ等の回数	25
2024	上記に加え、日本遺産推進協議会・常任委員会等	30
2025	同上	33
2026	同上	35

事業費	2024年度：300千円 2025年度：300千円 2026年度：300千円
継続に向けた事業設計	井波地域づくり協議会常任委員会においては、地域全体のビジョンの実現に向けての骨格を整理し情報共有を図り、日本遺産推進協議会・ワーキンググループ等において、日本遺産推進事業等の実施を検討する。

(事業番号 1-B)

事業名	「まちづくり会社」の設立		
概要	<p>日本遺産人材育成事業「三四郎プロジェクト」での取組みから発展した、「ジソウラボ」が核として活動し、「アキアラボ」「イドウラボ」「継業ラボ」等々多くの組織・プレーヤーが誕生した。</p> <p>その後も、井波地域の未来を描く「井波ビジョン 2040」が策定され、日本遺産を核としたまちづくりのための「まちづくり会社」の設立を推進する。</p>		
	取組名	取組内容	実施主体
①	井波地域のビジョンの実現に向けて、若者が主体となった民間組織「まちづくり会社の設立」	<p>日本遺産推進事業「日本遺産井波を継ぐ人材育成 三四郎プロジェクト」の波及効果として、一般社団法人「ジソウラボ」が、人材育成事業の原動力として活発な活動を開始し、様々な地域課題に取り組む組織が誕生した。</p> <p>日本遺産井波へのアクセスの改善等の公共交通を検討する「イドウラボ」、日本遺産の構成要素である、瑞泉寺の中心市街地の空き家空き店舗の活用を検討する、「アキアラボ」、中心市街地で事業を営んでいる事業所等の事業継業を推進する「継業ラボ」が設立された。</p> <p>日本遺産認定を好機として、2016年から2022年(令和4年度)末まで7年間で、井波地域の空き家・空き店舗が48軒も再生している。人を呼び込む流れも生まれ、「まざりあい、つづけるまち 井波」の実現を目指して、まちづくり会社の設立を目指す。</p>	井波地域まちづくり推進協議会 (イナミライ)
②			
③			
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	個人サポーター、法人パートナー数		協力団体人員数 22 名・ 団体数 6 団体
2022			協力団体人員数 69 名・ 団体数 7 団体
2023			協力団体人員数 81 名・ 団体数 8 団体(イナミライ増)

2024	同上	協力団体人員数 90 名・ 団体数 9 団体
2025	同上	協力団体人員数 95 名・ 団体数 10 団体
2026	同上	協力団体人員数 100 名・ 団体数 12 団体
事業費	2024 年度 : 500 千円 2025 年度 : 500 千円 2026 年度 : 500 千円	
継続に向けた 事業設計	若者が中心となって組織し活発な活動による波及効果は絶大なものであり、地域プロデューサー数や地域での若者のプレーヤー数は目標値を超えており、全国的にもモデルとなる取り組みを今後も推進する。	

(7) - 2 戦略立案

(事業番号 2 - A)

事業名	地域コンセプトを活かした、長期的戦略策定の為の調査や計画		
概要	南砺市総合計画・交流観光まちづくりプラン・文化財保存活用地域計画に位置付けられている、日本遺産井波ブランドを明確にし、国内外に向けて井波の木彫り文化（地域コンセプト）をまちの魅力として発信し、特に日本遺産井波の中核である「井波別院瑞泉寺」の保存活用について、国指定の重要文化財への昇格を目指し、積極的に調査研究を行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	文化財保存活用地域計画に基づく調査研究	文化財保存活用地域計画に基づく近代和風建築調査事業の実施による調査研究を推進し、日本遺産井波の中核である「井波別院瑞泉寺」の保存活用について、国指定の重要文化財への昇格を目指す。	南砺市・瑞泉寺 未来継承推進委員会
②	南砺市観光動向調査の実施	南砺市を訪問している観光客にアンケートを実施し、属性・旅行目的・満足度等を明らかにし、観光客の動向やニーズを把握することで、市内観光事業者にとって有益な情報を提供し、今後の観光施策のための資料とする。	南砺市
③			
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	観光動向調査により、南砺市内で訪問した場所について、井波地域の割合		26.0%
2022			31.0%
2023			28.3%
2024	同上		32.0%
2025	同上		国指定文化財昇格に伴い 来訪者の増加 35.0%
2026	同上		国指定文化財昇格に伴い 来訪者の増加 36.0%
事業費	2024年度：300千円 2025年度：300千円 2026年度：300千円		
継続に向けた事業設計	文化財保存活用地域計画に基づく近代和風建築調査事業等により、日本遺産井波の中核である瑞泉寺の国指定重要文化財への昇格を目指し、調査研究を実施し、日本遺産の構成文化財としての価値を高め、地域住民のシビックプライド並びに来訪者の増加を促進する事に繋げる。		

(7) - 3 人材育成

(事業番号3-A)

事業名	日本遺産を活用する人材育成・団体の設立		
概要	日本遺産を活用する人材育成・団体の設立のため、総合的な企画・立案を行うプロデューサーや事業実施を担うプレイヤーの組織化		
	取組名	取組内容	実施主体
①	イナミライの設立と地域ビジョン実現への活動	日本遺産推進事業「三四郎プロジェクト」から発展した、「ジソウラボ」が地域プロデューサーとして活動し、様々な組織が誕生した。交通アクセスを検討する「イドウラボ」・空き家・空き店舗の活用を推進する「アキヤラボ」・事業所等の事業継業を推進する「継業ラボ」が設立された。2023年にイナミライが発足し、2024年に向けての日本遺産井波も包含した地域ビジョンを策定し、実現に向けての取組みを開始する。	井波地域まちづくり推進協議会 (イナミライ)
②			
③			
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域プロデューサー数</li> <li>日本遺産推進事業「三四郎プロジェクト」の事業展開により、井波のブランドの構築発信等、地域内外の若者が参画する「ジソウラボ」の中核人数</li> <li>・地域プレイヤー数</li> <li>ジソウラボの連携による地域プレイヤーの人数</li> </ul>	プロデューサー7名	
2022		・地域プレイヤー22名	
2023		プロデューサー8名	
		・地域プレイヤー24名	
2024	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域プロデューサー数</li> <li>ジソウラボに加えイナミライの中核人数</li> <li>・地域プレイヤー数</li> <li>ジソウラボ・イナミライの連携による地域プレイヤーの人数</li> </ul>	プロデューサー10名	
2025	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域プロデューサー数</li> <li>ジソウラボに加えイナミライの中核人数</li> <li>・地域プレイヤー数</li> <li>ジソウラボ・イナミライの連携による地域プレイヤーの人数</li> </ul>	・地域プレイヤー30名	
2026	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域プロデューサー数</li> <li>ジソウラボに加えイナミライの中核人数</li> <li>・地域プレイヤー数</li> <li>ジソウラボ・イナミライの連携による地域プレー</li> </ul>	プロデューサー12名	
		・地域プレイヤー35名	
		プロデューサー15名	
		・地域プレイヤー40名	
		プロデューサー15名	
		・地域プレイヤー45名	

	ヤーの人数	
事業費	2024年度：300千円 2025年度：300千円 2026年度：300千円	
継続に向けた事業設計	<p>ビジョンは日本遺産井波の活動を包含した、井波地域全体の地域づくりであり、ここ7年間に48件の空き家・空き店舗が再生され地域が活性化した事例が大きく生かされている。「物より先に人が動くことの大切さ・人の輪の大切さ」ビジョンは一人では実現できない、今後もたくさんの人材を育成し、地域プロデューサーや地域プレーヤーの力が一つになって初めて実現できる、井波のシビックプライドの醸成が必要である。</p>	

## (7) - 4 整備

## (事業番号4-A)

事業名	インバウンド受け入れ環境整備		
概要	2025 年の大阪万博の開催や国のインバウンド施策などにより、多くの外国人が南砺へも訪れることが期待されている。南砺を訪れる訪日観光客が、目的地まで安全かつ迷わずに移動でき、楽しくまち歩きが楽しめるようなサイン整備を行うため、市内の主要道路や中心市街地の案内サインを調査する。様々な施策の中から設置された案内サインの現状と課題を洗い出し、統一性のある表示ルールについて提言し、次年度以降のサイン整備に役立てる。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	インバウンド受け入れ環境整備、看板・案内サイン整備事業	主要道路及び中心市街地の看板調査 車（レンタカー）、公共交通での2通りの移動手段を想定し、主要道路と中心市街地に設置している看板、案内サインの「表示名」や「見やすさ」「見つけやすさ」「分かりやすさ」等を調査し設置する。	南砺市観光協会
②			
③			
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	観光客の理解の深まりに関する満足度		①61.7%②82.8%
2022	①観光後の満足度		①66.4%②81.9%
2023	②再訪問の意向		①55.6%②85.4%
2024	同上		①67.0%②83.0%
2025	同上		①68.0%②84.0%
2026	同上		①70.0%②85.0%
事業費	2024 年度：3,150 千円 2025 年度：4,000 千円 2026 年度：5,000 千円		
継続に向けた事業設計	観光客の満足度については、観光施設・資源、食、接客に対する満足度等によるが、目的地まで安全で迷わずに到着できる案内サインの整備は重要である。特に外国人観光客については、多言語化が求められる。南砺市内での訪問先については、10年数前からJR東日本グループと連携し、世界遺産の「合掌造り」やユネスコ無形文化遺産「城端曳山祭り」並びに日本遺産「井波」をつないだ、3つの遺産を巡る「トライアングル構想事業」の展開を推進しており、案内サインの整備に関しても「トライアングル構想」を意識した整備に留意する必要がある。		

## (事業番号4-B)

事業名	受入環境整備 スムーズな来訪につなげる仕組みの構築		
概要	AI チャットボットを導入し、観光客のニーズを踏まえた情報発信を行うことにより、日本遺産を含む地域の魅力を効果的に伝えるとともに、観光客の満足度の向上と市内での周遊促進を図る。メタバースの活用により、井波地域の伝統的な町並みや木彫刻作品等の魅力を国内外に発信し、日本遺産認定地域への誘客につながることを目指す。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	【AI チャットボット】 個々の観光客のニーズを踏まえたコンシェルジュサービスを提供しうるAIチャットボットを導入し、日本遺産構成文化財を含む地域の魅力を発信する。	2021年にAIチャットボット(英語・日本語対応)を導入し、利用者も着実に増えている。今後はチャット履歴を解析し、エビデンスベースの観光施策を検討するとともに、観光客の多様なニーズに対応したきめ細かなサービス提供を目指す。	
②	【メタバース】 地元写真家が井波地域をメタバース空間で再現し、日本遺産の魅力を国内外に発信する。	人材育成「三四郎プロジェクト」のメンバーである写真家が「井波」と「木彫」に着目し、日本遺産の魅力を世界に発信するために、メタバース空間「バーチャル井波」で井波の町並みと木彫刻を再現する。	
③			
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	観光客の理解の深まりに関する満足度		①61.7%②82.8%
2022	①観光後の満足度		①66.4%②81.9%
2023	②再訪問の意向		①55.6%②85.4%
2024	同上		①67.0%②83.0%
2025	同上		①68.0%②84.0%
2026	同上		①70.0%②85.0%
事業費	2024年度:2,625千円 2025年度:2,625千円 2026年度:2,625千円		
継続に向けた事業設計	①効果検証を視野に入れた情報発信ツールの導入 AIチャットボットの履歴解析などにより導入効果を検証するとともに、日本遺産事業を含む観光施策の効果検証に活用したい。 ②柔軟な運営管理体制の構築 民間と連携して取り組むことや民間の自主運営に委ねる場合(メタバース)など、柔軟な運営管理体制を構築したい。		

(7) - 5 観光事業化

(事業番号5-A)

事業名	ストーリーを体感できる商品の開発・販売
概要	日本遺産のストーリーと結びつく体験型コンテンツや構成文化財の中心である瑞泉寺の文化財を活用した地域の特性を活かした企画商品として造成販売する。

	取組名	取組内容	実施主体
①	井波別院瑞泉寺 ナイトミュージアムの 企画・造成・販売 井波彫刻の技と美を ライトアップ	日本遺産の構成文化財である、井波彫刻は今も約 200 名の彫刻師が、江戸中期からのちょう国技術を受け継いでいる。その井波彫刻の発祥の地である「井波別院瑞泉寺」は木彫刻の美術館とも称され、精密な彫刻が随所に施されている。従来は、夕刻には門が閉じられる瑞泉寺に於いて、特別に夜間ツアーを企画し、寺院内の彫刻をライトアップすることで、陰影が生まれ日中では見ることのできない彫刻の緻密を感じることができる。 井波彫刻師による解説により、井波彫刻の技術への理解を深堀することができる。	南砺市観光協会・井波彫刻協同組合・井波別院瑞泉寺
②			
③			
④			

年度	事業評価指標	実績値・目標値
2021	・観光客の入込数・滞在時間・消費金額(客単価) ①井波地域入込数 ②宿泊割合、日帰り半日滞在者割合 ③消費金額平均(/回)	①88 千人 ②33.6%・33.2% ③34,689 円
2022		①92 千人 ②44.8%・28.8% ③37,005 円
2023		①163 千人 (1~12 月計) ②44.3%・33.4% ③37,940 円
2024	同上	①95 千人 ②45.0%・28.0% ③37,500 円
2025	同上	①96 千人 ②46.0%・28.0% ③38,000 円
2026	同上	①97 千人

		②47.0%・27.0% ③38,500円
事業費	2024年度：500千円 2025年度：500千円 2026年度：500千円	
継続に向けた事業設計	北陸新幹線の敦賀延伸並びに2025年の大阪万博の開催により、外国人・国内旅行者と多くの方が南砺へも訪れることが期待されている。これを好機として、南砺市観光協会・井波彫刻協同組合・井波別院瑞泉寺が連携して、これまでにない旅行企画商品を販売することとなった。また、JR西日本においても、北陸デスティネーションキャンペーンの商品としても販売を計画している。地元の特色ある地域資源である、彫刻・日本で4番目に大きい木造伽藍の瑞泉寺本堂や井波彫刻で飾られている日本最大の太子堂等の文化財を活用する絶好の企画である。	

(7) - 5 観光事業化			
(事業番号5-B)			
事業名	国庫補助事業を活用した、商品の開発・販売		
概要	国庫補助事業を活用して、体験型コンテンツや瑞泉寺等の文化財を活用した、地域の特性を活かした企画商品の開発・造成・販売を図る。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	文化庁・観光庁等の補助事業を活用した、企画商品の開発・造成・販売の促進	<p>①「インバウンドの地方誘客や消費拡大に向けた観光コンテンツ造成支援事業」観光庁補助 事業費：6,000千円・事業主体：南砺市観光協会 事業内容 瑞泉寺にて井波彫刻を味わう 体験型木彫刻ナイトミュージアム</p> <p>①体験型木彫刻ナイトミュージアム商品の造成 ②商品の魅力を伝え企画の集客増に繋げる特設サイトの設置 ③企画の集客と旅行商品の販売拡大を目指しプロモーション素材の作成</p> <p>②「日本遺産における魅力増進・コンテンツ造成事業」文化庁補助 事業費：14,973千円・事業主体：スタジオエル 事業内容 宮大工の鑿一丁から生まれた木彫刻美術館井波</p>	南砺市観光協会・井波彫刻協同組合・井波別院瑞泉寺

		<p>に点在する魅力を面的に強化するプロジェクト</p> <p>①井波の歴史を伝える木彫刻美術館マップ</p> <p>②小型の乗り物を使って町を巡るツアー企画</p> <p>③伝統食を活用した新メニュー開発と瑞泉寺での宴の開催</p> <p>③「訪日外国人富裕層の価値観に応える、高付加価値ツアー造成事業」観光庁補助 事業費：8,770千円・事業主体：三越伊勢丹ニッポウトラベル</p> <p>事業内容 世界遺産・日本遺産で泊まる・体験する・過ごす高付加価値ツアー造成事業</p> <p>①地域との協働によるクラフトツーリズム</p> <p>②クラフトを生み出す地域で日常を過ごすような体験</p> <p>③高付加価値ツアーを支える移動手段</p> <p>④「歴史的資源を活用した観光まちづくりのモデル創出事業」観光庁補助 事業費：20,000千円・事業主体：ジソウラボ</p> <p>事業内容 産業遺産・旧紡績工場と古民家宿を繋ぐ工芸の町の再興</p> <p>①域内全体のマネジメントを担う地域経営体制の整備</p> <p>②高付加価値化や地域経済循環・波及効果の最大化</p> <p>③地域社会への還元・文化及び環境の持続可能な保全</p> <p>以上のように、観光協会・民間NPO組織・旅行事業者・コンサルタント会社が、日本遺産井波の特色を活かした補助事業に取り組み、様々な企画商品の開発・造成を行っている。</p> <p>これらの事業で取り組んだ成果を、今後の旅行商品開発や販売につなげ、誘客の促進・宿泊者の増進並びに消費金額の増加を図る。</p>	
②			

③			
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	・観光客の入込数・滞在時間・消費金額(客単価) ①井波地域入込数 ②宿泊割合、日帰り半日滞在者割合 ③消費金額平均(/回)		①88千人 ②33.6%・33.2% ③34,689円
2022			①92千人 ②44.8%・28.8% ③37,005円
2023			①163千人(1~12月計) ②44.3%・33.4% ③37,940円
2024	同上		①95千人 ②45.0%・28.0% ③37,500円
2025	同上		①96千人 ②46.0%・28.0% ③38,000円
2026	同上		①97千人 ②47.0%・27.0% ③38,500円
事業費	2024年度：500千円 2025年度：500千円 2026年度：500千円		
継続に向けた事業設計	インバウンド受け入れについては、高付加価値化が期待されている。北陸新幹線の敦賀延伸並びに2025年の大阪万博の開催により、多数の外国人旅行者が南砺へも訪れることが期待されている。 これを好機として、南砺市観光協会が中心となって、観光庁・文化庁の補助金を活用した事業をブラッシュアップして、これまでにない高付加価値の旅行商品を販売することに務めていきたい。		

(7) - 6 普及啓発

(事業番号6-A)

事業名	地域住民に対する日本遺産井波の普及啓発		
概要	地域住民に対し日本遺産井波の認知・関心を高め、誇りに思えるシビックプライドの醸成を促進する為、学校教育との連携を図り、日本遺産井波の特色を活かした、文化財を活用した事業を展開し、普及啓発を行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	日本遺産未来継承講座（ふるさと学習）	<p>日本遺産未来継承講座を、学校側の協力により、地元小中学生全児童・生徒を対象として実施する。</p> <p>井波中学校では日本遺産認定を契機に井波をさらに魅力ある地域とする方策を、生徒らが調査・検討する、「木遣り踊りを学ぶ」、「井波のよさを再発見」「井波のよさコンテスト」等を実施し、井波のよさを写真に撮りレポートにまとめる。更には「地域活性化への提言」として地域の課題をグループに分かれて中学生の視点から課題解決に向けた調査・検討し提言を行う。</p> <p>井波小学校では、「木遣り踊り体験」、「彫刻師から技を学ぶ体験」、「井波日本遺産ふるさと検定」を実施する。</p>	井波小学校 井波中学校
②	日本遺産未来継承シンポジウム	<p>どうする「瑞泉寺」を護るために日本遺産認定を契機として、日本遺産構成文化財の中核である瑞泉寺の未来継承を考える、民間組織「井波別院瑞泉寺未来継承推進委員会」が設立された。</p> <p>商工会・ガイド・文化財審議委員・大学教授・中学校の男女による、「未来継承シンポジウム」を開催し、日本遺産や文化財を活用した地域づくりについての意見を集約し、南砺市長に提言する。</p>	井波別院瑞泉寺未来継承推進委員会
③	令和踊り屋体後継者育成・伝承	<p>日本遺産推進事業によって10年ぶりに復活した、「令和踊り屋体」の踊り子の育成と伝承の為、子供の踊り子を地元小学校児童から募集し、踊りを伝承する。</p> <p>日本遺産井波のシンボルとして、踊り屋体の披露並びに踊りの披露を実施する。</p>	井波日本遺産推進協議会
④			

年度	事業評価指標	実績値・目標値
2021	①学習体験をした生徒の数	①489人 ②データ無し
2022	ふるさと学習受講の生徒数	①474人 ②31.9%
2023	(児童生徒の全体数は減少している) ②日本遺産の認知度	①448人 ②28.3%
2024	同上(児童生徒数は減少の為全員参加とする数)	①460人 ②33.0%
2025	同上(児童生徒数は減少の為全員参加とする数)	①450人 ②34.0%
2026	同上(児童生徒数は減少の為全員参加とする数)	①440人 ②35.0%
事業費	2024年度：800千円 2025年度：800千円 2026年度：800千円	
継続に向けた事業設計	<p>日本遺産推進事業によって10年ぶりに復活した、「令和踊り屋体」は、補助事業終了後も、踊り子の育成と伝承の為、子供の踊り子を地元小学校児童から募集し、また、「屋体本体」の魅力を更に高めるために、新たな井波彫刻の装飾を追加しその豪華さが一層注目されている。</p> <p>日本遺産井波のシンボルでもある、「令和踊り屋体」は、屋体の披露並びに踊りの披露を春の祭礼で披露している。</p> <p>今後も持続可能な運営を継続できるように、組織体制や自主財源確保に務めたい。</p>	

(7) - 7 情報編集・発信

(事業番号7-A)

事業名	ウェブサイト・SNS・PR動画等による、情報発信体制の整備と継続的な情報発信		
概要	講演会・勉強会ははじめ、オンライン相談、起業家募集、地域行事、各種イベントの告知、取組み内容の配信回数。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	情報発信体制の整備と民間事業者・行政機関との連携強化による情報発信	<p>日本遺産を活用した、地域づくりのための講演会・勉強会をはじめとして、地域の魅力についての発信、起業者への立ち上げサポート告知及び好事例の紹介など、発信を行う。</p> <p>日本遺産に関連する地域の魅力やイベント情報の随時発信を行う。</p> <p>着任した「地域おこし協力隊員」は、日本遺産担当として、日本遺産井波の情報発信や広報活動・SNS等について積極的に活動しており、SNSの投稿頻度を高め、またYouTubeチャンネルを開設し、着実にフォロワー数を伸ばすように努める。</p> <p>更には、祭事や新しい取り組みをはじめ、講演会の記録等を速やかにYouTubeなどで発信し、さまざまな情報を広く知ることができる媒体として、地域内外の方の認知度を高めていく。他にも日本遺産ポータルサイトにイベント情報の投稿を開始する。</p> <p>地域づくり協議会や南砺市観光協会のHPにリンクして、多くの方々に情報が届くように勤めると共に、ジソウラボ等の民間のSNSとも連携を深め、地域全体での情報発信を図る。</p> <p>構成文化財の中核である、瑞泉寺に於いて、年間を通じて毎日、日本遺産推進事業で制作した「日本遺産井波」のDVDを放映することとする。</p>	日本遺産井波・南砺市観光協会・ジソウラボ・井波地域づくり協議会
②			
③			
④			

年度	事業評価指標	実績値・目標値	
2021	・日本遺産井波・南砺市観光協会 ・ジソウラボ・井波地域づくり協議会 ①SNS 更新回数 ②SNS 登録人数	①Note:6 YouTube:38 Facebook:45 ②Youtube:89 Facebook:587 Note:51	
2022		①Note:6 YouTube:50 Facebook:232 ②Youtube:283 Facebook:4241 Note:60	
2023		①Note:7 YouTube:102 Facebook:317 insta54 ②Youtube:296 insta219 Facebook:4397 Note:67	
2024		同上	①Note:7 YouTube:102 Facebook:317 insta54 ②Youtube:296 insta219 Facebook:4397 Note:67
2025		同上	①Note:7 YouTube:102 Facebook:317 insta54 ②Youtube:296 insta219 Facebook:4397 Note:67
2026	同上	①Note:7 YouTube:102 Facebook:317 insta54 ②Youtube:296 insta219 Facebook:4397 Note:67	
事業費	2024 年度 : 300 千円 2025 年度 : 300 千円 2026 年度 : 300 千円		
継続に向けた事業設計	日本遺産担当の地域おこし協力隊員が任命されたことにより、専従しての日本遺産等の地域づくりの情報発信体制が整いつつあり、タイムリーな情報発信が出来るように、行政・民間組織の連携を更に強化することを図る。		